

# 都市経済常任委員会県外行政視察報告書

期 日 平成21年7月29日(水)～30日(木)

視察地 磐田市(29日) 島田市(30日)

視察者 都市経済常任委員会委員

委員長	金澤秀信
副委員長	山本秀和
委員	石田芳夫
委員	横田淳一
委員	近藤常雄
委員	金子俊雄
委員	友山信夫

執行部

環境経済部長	石川仁
建設部長	加藤雅久

議会事務局

主幹	高山勇
----	-----

視察事項

静岡県磐田市 『橋梁診断プロジェクト』について

静岡県島田市 『お茶がんばる課の取り組み』について

視察報告

## 7月29日(水) 磐田市

平成17年4月、磐田市・福田町・竜洋町・豊田町・豊岡村が合併して、新「磐田市」が誕生した。磐田市は、日本のほぼ中央、静岡県西部の天竜川東岸に広がる地域であり、遠州灘に面している。

奈良時代には、遠江国分寺と遠江国府が置かれ、古墳時代の約500基以上の古墳が現存するなど、歴史が語りつがれているまちで、江戸時代には、東海道53次見付宿として繁栄するなど、東西交通の要所として発展してきた。

近年では、地場産業である繊維産業に加え、金属、自動車、楽器などの工業都市として、磐田市全体の製造品出荷額等は平成18年の数値で県下第2位、全国でも12位と

なっている。また、農業算出額も県内屈指で、農水産物として温室メロンや茶、白ねぎ、海老芋、中国野菜、シラスなどが有名。都市部と農村部が均衡ある発展を遂げている。

磐田市は、東海道の間地点に位置し、交通の要所として発展してきたため、東西方向の交通体系に恵まれている。鉄道は、東海道本線が市の中央部を横断し、天竜浜名湖線が市の北部を縦断しており、住民の交通手段として日々利用されている。道路は、東名高速道路、国道1号、1号バイパス、150号、150号バイパス、152号、県道、市道から構成され、北部には第2東名も建設中である。

最近では、サッカーJ1ジュビロ磐田のホームタウンとして、全国的に有名になっている。

## 「橋梁診断プロジェクト」について

### 1 事業導入の経緯・背景について

橋梁建設後長い年月が経過し、また、通過車両の増大・重量化等により橋梁への過酷な条件の負荷がかかっている。一般的に橋の寿命は60年程度と言われているが、磐田市管理の1,695橋梁のうち、築50年以上の橋が平成20年現在6.6%で、平成27年には19.5%、平成37年には53.3%になる。

従来型の橋梁維持管理は、老朽化したら補修や架け替えをするという考え方であったが、公共工事予算制約の中では対応が困難となっている。悪くなってからの補修・架け替えという考え方から、橋梁診断をし、その診断結果をもとに計画的に補修していくという方針に転換した。予防保全につなげ、少ない経費で橋梁の長寿命化を図ろうというもの。

平成17年11月28日、明星大学（東京都日野市）と橋梁診断に関する官学連携協定を締結した。

### 2 事業概要について

橋梁診断官学連携協定に基づき、明星大学鈴木博之教授・浅岡敏明講師（理工学部）を中心としたプロジェクトチームが橋梁を診断する。その結果をもとに、橋梁に関する情報をデータベース化し、維持管理を示した「橋守カルテ」を作成する。

「橋守カルテ」をもとに、磐田市は検査や清掃、予防保全工事、塗装などの「橋守」作業の体系化をする。橋の寿命を延ばすことで市の財政的負担を軽減するとともに、継続的な「橋守」の作業を実施することで、今後、地元企業に新たなビジネス分野を提供していく。

#### ◆橋守カルテの項目

・構造物情報（上部構造、下部構造、外力、塗装、構造大要、示方書類、構造物のチ

ェックポイント)

- ・履歴（検査履歴、対策履歴）
- ・保有性能と劣化予測
- ・維持管理手法（重点検査項目、L C A A情報、延命化のために、監視項目）

◆明星大学作成の橋守カルテ処方箋による指摘事項（不具合・劣化予測）

- ・橋梁全般：伸縮装置の破損 橋面部の舗装劣化 排水ドレーンの目詰まり  
          支承部腐食 橋梁周辺の草の繁茂 シューの可動機能障害  
          路肩部の土砂堆積
- ・P C橋：コンクリートのひび割れ コンクリートの遊離石灰
- ・鋼 橋：主桁の塗膜状態（剥離進行・サビ） 溶接部・リペット接合部状態  
          支点部の腐食

◆診断例：橋梁補修「一本松橋」

一本松橋は、昭和55年2月に竣功し、診断時点で28年が経過。市道見付岡田線に架設してある橋梁で、国道1号から国道150号までを縦貫する主要幹線であり、日交通量は約8,000台。

平成18年9月に明星大学による橋梁診断を実施し、橋梁左岸側の伸縮装置の不具合、アンカーボルトの緩みやコンクリートの欠け落ちが見受けられた。早急に対処すべきとの報告書が提出され、処方箋に基づき現地踏査をした結果、ゴムジョイントのバタツキを確認した。この不具合による衝撃は、橋梁本体に悪影響を与えていると判断したので、平成19年7月に緊急補修工事を実施した。このまま放置したとすると、橋梁のひび割れ損傷や橋全体へのクラック誘発のおそれがあったものと思われる。

### 3 地域住民、地元建設業者の協力について

#### (1) 地元住民

- ・まち美化パートナー活動による「橋守アダプト」の取り組み（平成19年度から）  
※まち美化パートナーには、自治会、企業、学校、NPOなど約120の登録がある。
- ・明星大学から、橋梁診断をもとに橋梁の長寿命化のための方策が示された。ペンキの塗り替え、水抜き穴の清掃、橋梁の下草刈りなどにより、錆の進行を防ぎ、インフラの長寿命化が可能となる。
- ・作業としては、明星大学から示された橋梁点検ポイントによる点検や、高欄の塗装、下草刈り、橋下に堆積した土砂除去などとなる。
- ・地区住民自ら「橋を大切にしたい」という気持ちが芽生えており、これまでに5橋の点検と清掃作業を実施している。

#### (2) 地元建設業者

- ・橋梁診断プロジェクト報告会（勉強会）

内容：橋梁アセットマネジメントについて

橋守アダプト事例紹介（地域住民による橋守）

橋梁調査報告（明星大学）

講演「橋梁の維持管理は地産地消」（NPO橋守支援センター）

- ・今後の展開として、橋守カルテに基づくメンテナンス事業（維持補修工事など）を的確に実施できるよう、建設事業者のスキルアップを図る。

#### 4 財政的効果について

事業効果としての財政的効果については不明である。しかし、現在の橋梁を架替する場合、「取り壊し費用」「仮設橋梁建設費用」「新橋架替費用」が必要となるため、新たに架ける橋梁と比べ2倍から3倍の事業費が必要となり、いかにして橋梁の長寿命化を図っていくかが重要となる。

#### 5 課題及び今後の事業展開について

- ・課題：市内には1,695橋あるが、短期間にすべての橋梁診断は不可能  
対応：緊急輸送路、ネットワーク幹線（例：市役所－駅－東名高速道路IC－国道－主要県道－港－病院－学校）、迂回路や災害時の避難地に導く道路に架設してある橋長15m以上の橋梁を優先して診断する。（169橋梁対象）
- ・課題：地元建設業者の橋梁に対する知識の向上、橋梁メンテナンススキルの習得  
対応：橋梁診断報告会による情報提供　メンテナンスの講習会
- ・課題：橋梁の長寿命化計画の策定（平成24・25年度）  
国では、橋長15m以上の橋梁について、「橋梁の長寿命化計画」を平成24年度から25年度にかけ策定することを義務付けている。そのためには、平成23年度までに15m以上の橋梁169橋について、確実に橋梁診断を終える必要がある。  
対応：明星大学をはじめ橋梁診断のノウハウのある企業等に診断を委託。平成23年度までに着実に診断を終了する。

#### ◆橋梁診断年度計画

年 度	H 1 7	H 1 8	H 1 9	H 2 0	H 2 1	H 2 2	H 2 3
診断数	3	4	9	22	64	36	31
累 計	3	7	16	38	102	138	169

#### 【視察時の質疑から】

- Q) 事業費はどのくらいかかっているか。また、市の体制は。
- A) 明星大学と協定を結んでいる中で、1橋あたり約10万円。日数的には、橋の長さなどにもよるが、1日5橋位診断。橋梁業務についてはメイン担当が実質的には1人。
- Q) 地域住民（まち美化パートナー）が主体となり「橋守アダプト」の取り組みとある

が、これについての現状はどのようになっているか。また、これに対する費用補助的なものはあるのか。

- A) 「長野道愛会」の5橋を紹介したが、それ以外にも、欄干のペンキ塗りなどをやっていただいている。費用的には、軍手、草刈り機の燃料代、ペンキなど原材料の支給のみで、かなりの部分ボランティアでやっていただいている。
- Q) 保険はどうしているか。
- A) まち美化パートナー制度で保険に加入している。
- Q) 15m未満の橋をどうするか。例えば簡易診断等で、総ざらいする考えはないか。
- A) まず15m以上の169橋を診断し、残りの9割位のうち緊急輸送路、ネットワーク幹線にかかる15m未満のものが65橋あるので、それを第2弾として考えている。
- Q) 長寿命化計画の中では耐震診断に対する補助制度は含まれていないのか。
- A) 長寿命化修繕計画と耐震診断事業は別のもの。
- Q) 磐田市の近隣でこうしたプロジェクトを行っているところはあるか。
- A) 平成25年度までに長寿命化計画を作るということで、静岡県下すべての市で診断を行っている。官学連携事業として行っているのは、磐田市だけだと思う。
- Q) 橋を診断した結果、劣化が進んでいるので、大型車の重量を制限するといったようなことはしていないか。
- A) 169橋については、緊急輸送路や幹線道路なので規制は難しい。
- Q) この橋守カルテは目視によるものだが、長寿命化計画のためにさらに詳細調査を行うのか。
- A) このカルテは、国のサンプルベースにのっとるようなかたちのもの。
- Q) 橋守カルテを作って行って、いずれ橋の寿命がきたときには架け替えていくようだと思うが。
- A) 将来的な架け替え計画が必要になってくると思う。予算上の長期計画も必要だが、まだ具体的にはできていない。

#### 【視察後の協議会から】

- ・ 官と大学の連携、金額は別にしてもそうしたプロジェクトを作ったことはすごい。近隣市でもやっていないということで、民間でなくて大学を取り入れたということはすばらしい。
- ・ 橋だけでなく道路についても、全体的にこれから維持管理をどうするかということが、大きな課題になってきている。そういう意味では、先進的なのかなという感じがした。一方、実際のカルテを見ると図面がほとんどない。残すべきものは残すという考えでいかないと、維持管理をする上で障害になる。車両の重量制限をするなど、安全性を確保していく観点から、対応策を含めてもう少し内容を深めていければと感じた。

- ・ 磐田市の方法は一つのやり方と考えて、入間市としてどういう形をとるかということ、入間市の状況をよく調べ、それからこれを採り入れられれば採り入れ、できればコストをかけずにやっていけるように検討していったらよいのではないか。
- ・ 橋守アダプトについて、自分たちの地域で自分たちが毎日使う橋なので、関心をもって見てもらおうという方向性としては面白いものがある。愛着を持って応援団的に日頃から注意して見ていただいて、できる地域から取り組めると面白いが、住民負担が出てくるので、市民清掃デーのときについでに見てもらおうとか、足がかりとして始めてもいいのかなという印象を持った。
- ・ 台帳整備、基礎資料が大事だと思うので、データは全部揃わないだろうけれど、とにかくきちんと見て、ここにこんな橋があって、このぐらい経っていて、今後何年か先にはこういう順番で直していかなければいけないといったようなことを把握する意味でも、基礎資料をまず作る必要があるという印象を持った。
- ・ 磐田市のカルテを見ると、これだけデータ項目がある中で埋まっているのはすごく少ない。これだけ必要だということでカルテができているのに、データが埋まっていないというのはどういうことかということ、やはり目視では限界があるということ。そういう意味では図面があるうちに、こういうカルテを整えることが重要なのかなと感じた。
- ・ 住民の協力の関係では、市民清掃デーや、霞川、不老川の清掃をする際、点検報告をしていただけるようなシステムが一番現実的なのかなと感じた。
- ・ 20年後位に一斉に寿命を迎えたとき、一気に架け替えというような事態が起こらないように、今の段階で大きな損傷がないうちに点検して手当てをしていくことが重要と感じた。
- ・ まち美化パートナーという制度で、ボランティアをお願いして橋も一緒に見守っていただく着眼は、非常に参考になった。
- ・ 入間市でも駿河台大学などと連携している部分も多少あるが、市内にとらわれずに、明星大学のように学部単位での共同も必要なのではないか。
- ・ 地元企業の保護育成という観点から、橋梁診断については、目視だけではなく、非破壊検査等のプロでなければできないような診断事業について、地元企業に設備投資、研修していただくことによって、固定的な仕事が確保できるのではないか。
- ・ 市民との協働という意味では、市民にやっていただくための準備作業としての計画書、チェック項目の作成などは、行っていただきたいと思った。
- ・ 公共物の建設から維持管理までの総費用について、建設の段階できちんと計上していく。維持管理費の項目をしっかりと予算計上して、将来にわたる実施計画に必ず載せていく。予算が財政的に苦しくなってくるとそういうものを先送りして削る方向にあるが、苦しくてもそれはやっていくということが大事ではないかと考えた。

## 7月30日(木) 島田市

島田市は、静岡県ほぼ中央、大井川の中流域に位置している。市の中央部には、川幅約1kmの大井川が流れ市域を二分している。地勢的には概して南北に長く、北部は山地が多く、南部は大井川によって形成された扇状地及び牧之原台地からなっている。

市域的には東海道本線をはじめ、国道1号、国道473号、東名高速道路が通過しているだけでなく、新東名高速道路、静岡空港等の大規模プロジェクトが進行していることから、空と陸の交通アクセスが大幅に向上することが期待され、国内はもとより海外へつながる交通の拠点として注目されている。

平成17年5月に旧島田市と旧金谷町の合併、平成20年4月に旧川根町との合併により、人口約10万4千人の新「島田市」がスタートした。旧島田市と旧金谷町は、大井川川越しとともに東海道の宿場町として、旧川根町は茶業や林業を中心に発展してきたまちで、それぞれ地理的・歴史的にも多くのものを共有してきた。新市では、それぞれ旧市町の特徴を生かしながら、新しい時代に向けたまちづくりを進めている。

### 「お茶がんぼる課の取り組み」について

#### 1 島田市のお茶業の概況について

島田市には、島田地区(旧島田市)の島田茶、金谷地区(旧金谷町)の金谷茶、川根地区(旧川根町)の川根茶の3つのブランドがある。茶園面積は2,087ha(2005年農林業センサス)で、南九州市(鹿児島県)、牧之原市(静岡県)に次いで全国3位となっている。ちなみに入間市の茶栽培面積は、平成18年で495ha(関東農政局統計データ)である。経営耕地面積に対する茶園面積が70.8%、販売農家数に対する茶販売農家数(2,162戸)が85.0%となっており、圧倒的に茶業中心であることがうかがえる。また、荒茶生産量の5,789tは入間市の10倍以上となっている。

茶工場については、入間市が自園自製自販の製茶工場中心であるのに対し、島田市では荒茶工場が主流となっている。農家は荒茶まで生産し、製茶から販売は茶商が行うという流れ。入間市では製茶工場主を「お茶屋さん」と呼んでいるが、島田市では「お茶屋さん」というと茶商のことを指す。

茶の品種としては、やはり「やぶきた」が90%以上を占めているが、早生の「山の息吹」「つゆひかり」「さえみどり」「そうふう」、晩生の「はるみどり」「おくみどり」「おくひかり」の7品種を戦略品種として定めている。「やぶきた」以外はかなり値が下がってしまうので、なかなか普及していかないというのが実情のようであるが、収穫時期をずらすことにより工場稼働率の向上を目指している。

## 2 茶業振興のための各種事業について

### 【茶改植事業】

市内の茶園の若返りを促進するため、平成20年度から実施している事業（市単独補助）

#### (1) 補助対象者（申請者）

市内の農家、茶農協等の荒茶生産組織、複数の農家や茶農協等で組織する団体

#### (2) 補助対象経費

苗木代、茶樹・根株粉碎費、園地改良費（土壌改良剤等の購入費、深耕・混層作業に要する費用）

#### (3) 補助対象面積

栽培面積10a以上（中山間地域は5a以上）

#### (4) 補助率（額）

① 基本額 補助対象経費の1/5以内（限度額80,000円/10a）

② 加算額 機械化：一団地10a以上20a未満 基本額×10%

一団地20a以上30a未満 基本額×20%

一団地30a以上 基本額×30%

品種茶：市の戦略7品種 基本額×10%

認定農業者：基本額×20%

H20実績 改植面積：5.2ha 補助金額：4,391千円

### 【茶振興団体支援事業】

○島田市茶業振興協会（生産者、茶商、JA、行政で組織）への支援

- ・市内小中学校、幼稚園及び保育園へ給食茶の贈呈
- ・新茶期、行楽シーズンにおける市内観光施設等での呈茶サービス
- ・県内外のイベントでの呈茶サービスと販売
- ・島田市のお茶セットの販売（島田茶・金谷茶・川根茶 煎茶50gセット）
- ・茶感謝祭、献茶式、茶審査会等の開催、全品等への出品支援

○島田市茶手揉保存会への支援

### 【中山間地茶業の「担い手法人」の育成】

中山間地域にある荒茶生産組織（茶農協）を支援対象として、茶園の協同管理、担い手確保と企業的経営手法の導入を推進し、中山間地域の協同茶工場のモデル工場として育成する。（H21～H22）

### 【茶業経営セミナー（マーケティング講座）】

茶生産者をビジネス感覚をもった経営者に養成するため、テーマに沿った意見交換や討論をしながら考えを整理し、自己の経営に反映させる。講師は、事例紹介や参加者同士の意見交換と討論方式によって進行し、参加者の活発な発言を誘導し、それらをまとめるまで指導する。少人数によるセミナーとし、参加者は、経営者とパートナ

一（夫婦、親子、代表者とその会員）の2人1組による。

H20実績 開催数：2講座（1講座3回）

参加者：9組

テーマ：「たくましく続く経営のために」

第1回：誰とつながる農業？

第2回：茶づくりが続くために必要なものは？

第3回：何をどのように見直す？

#### 【生産基盤整備事業】

国や県の補助制度を活用して茶園地及び茶工場の整備推進

(1) H24の土地基盤整備と茶改植の実施に向けて、実施主体（地元受益者組織）の活動を支援

(2) 製茶機械の更新（荒茶生産20組織）

H20実績 茶植栽事業 事業費：21,525千円 国庫交付金：10,250千円

荒茶工場整備 事業費：311,778千円 国庫交付金：148,465千円

荒茶機械更新 事業費：79,800千円 国庫交付金：38,000千円

#### 【日本茶のいれ方セミナー講師派遣】

市民（団体や職域など）を対象にした茶商等による出前の日本茶セミナーの開催（お茶の基礎組織とお茶のいれ方など）

H20実績 地域・職域：10団体 188人受講

市職員：14回 280人受講

### 3 予算及び経済効果について

経済効果については不明のため、予算のみ。

(1) 茶業事務経費 2,085,000円

島田市のお茶紹介パンフレット 273,000円（中韓2ヶ国語版）

(2) 茶生産施設整備事業 1,990,000円

共同製茶工場近代化資金利子補給金 1,965,000円

(3) 茶業振興事業 360,068,000円

① 島田市茶業振興協会補助金 11,606,000円

② 川根お茶街道推進協議会負担金 500,000円

③ 財団法人世界緑茶協会負担金 850,000円

④ 茶改植補助金 6,000,000円

⑤ 強い農業づくり交付金 340,215,000円（荒茶加工施設の更新 10組織）

※国の緊急経済対策

(4) お茶の郷運営費 65,455,000円

① 施設管理委託料 55,255,000円

- ② 施設修繕費 5,434,000 円
- ③ 土地使用料 2,936,000 円

#### 4 課題と今後の事業展開

##### (1) 経営体質の強化

- ① 茶生産を担う人材や個性的な個人経営体の育成
  - ・経営感覚や農業技術の習得機会の充実
  - ・経営の法人化や農業生産法人化
  - ・地域や個性を活かした自園自製（自販）農家の育成
- ② 茶工場の運営改革と新たな茶生産組織の育成
  - ・外部からの茶工場運営の担い手確保や運営手法と製茶技術等の継承
  - ・小規模茶工場の組織再編（既存施設を利用した経営の合理化）
  - ・法人経営への転換と農業生産法人化
  - ・地域や荒茶生産組織における茶園管理の共同化、組織化
- ③ 茶園地の整備と茶園管理の機械化
  - ・茶園地基盤整備の機運の醸成と実施に向けた活動の推進
  - ・地域の実情にあった小規模な茶園地整備の推進
  - ・荒茶生産組織又は認定農業者を中心に茶園の集積促進、改植又は畝変えによる茶園地の整備
  - ・投資効率を考慮した乗用型茶園管理機の導入（補助制度の活用、共同による導入、傾斜地対応型の導入）
- ④ 茶改植と品種茶普及の推進
  - ・市補助制度の活用促進
  - ・荒茶生産組織単位による茶改植の推進
    - 年次計画の策定、代替園の確保、国等の補助制度の活用等
  - ・生産者と流通業者の連携強化による品種茶普及

##### (2) 環境に配慮した安全・安心な茶業の推進

- ・施肥基準（窒素分量）の遵守の徹底
- ・農薬の安全使用基準と農薬飛散防止対策の徹底
- ・エコファーマーの認定推進、地域の特性を活かした特別栽培や有機栽培の導入
- ・農業生産工程管理手法の導入

##### (3) 売れるお茶づくり

- ・消費者嗜好の把握、生産者と流通業者の連携による消費者ニーズにあったお茶づくり
- ・製法や品種の違いによるアイテム数の充実、一番茶と二番茶以降の用途を明確にした販売戦略の構築

#### (4) 消費の拡大

- ・日本茶セミナーを通して市民のお茶に対する理解を深める。
- ・児童、生徒を対象にしたお茶教室の開催や学校給食への茶の活用
- ・消費地のアンテナショップの活用、消費地の茶問屋と連携した PR 活動、販売促進活動
- ・縁故販売や通信販売の強化
- ・宣伝、販売の関連資材の工夫と充実
- ・大消費地の消費者を産地に招き、産地の紹介と茶文化や緑茶に対する理解を深める。

#### (5) ブランド化の推進と確立

- ・ブランド化の基本コンセプトの確立
- ・ブランド名を成長軌道に乗せる取り組みの実践
- ・生産者、茶商、JA、市（市茶業振興協会）の役割と取り組みの実践

#### (6) お茶によるまちづくり

- ・日本茶セミナー等を通して島田市がお茶のまちであることの認識を深める。
- ・市内のお茶にまつわる歴史や文化を積極的に紹介する。
- ・茶園の持つ美しい景観を活用したまちづくりの推進
- ・お茶の持つ機能性を活用した健康づくりの推進
- ・お茶の郷の充実と茶文化の普及

### 5 お茶の郷博物館について

#### 【設置目的】

平成10年4月金谷町が、お茶に関する様々な情報を受発信する拠点施設として建設した。それ以来日本及び世界の茶文化、産業、喫茶習慣、効用等を紹介して茶に関する理解を深めてもらうとともに全国に向けて茶産地金谷と金谷茶を PR して茶産業、文化振興、観光振興を図り、地域経済の活性化に寄与させるため設置した。平成17年の合併により新島田市がこれらの

目的を引き継ぎ、市の茶業振興と茶文化の普及等を図っている。

#### 【施設概要】

- (1) 敷地面積 19,313.72 m<sup>2</sup> (内、一部借地 駐車場用地 3,529.00 m<sup>2</sup>)
- (2) 博物館 (常設展示室、特別展示室、多目的ホール、お茶のライブラリー、展望ロビー、収蔵庫、事務室)  
体験型の動態展示手法によりお茶の試飲、展示ガイドによる展示説明及び地元茶の紹介、世界の喫茶風習の疑似体験ができるよう喫茶環境の復元
- (3) 商業館 (レストラン、売店、事務室)  
島田茶・金谷茶を中心に、茶関連商品や島田市及び周辺の特産品、県内の東海

道宿場町の特産品の販売

(4) 茶室（広間、小間、トイレ、厨房）

江戸時代の大名茶人である小堀遠州が手がけた、京都の八幡山瀧本坊及び伏見奉行屋敷の茶室を『城州臥見旧宅之図』（佐治家蔵）、『伏見奉行屋敷鎖之間指図』（中井家蔵）、『茶室起絵図』などにに基づき復元。（茶室、庭園の監修者は京都造形芸術大学教授中村利則氏）

(5) 屋外店舗

スナックやドリンク類の販売

(6) 日本庭園

小堀遠州が作庭した京都仙洞御所（御水尾院御所）東庭を『寛永度御水尾院御所指図』（宮内庁書陵部蔵）に基づき復元

【事業費】

総事業費 3,247,801 千円

（内訳）用地補償費：302,786 千円 工事費：2,688,529 千円

設計測量試験費：168,044 千円 備品費：88,442 千円

（財源）世界に輝く静岡づくり事業交付金：779,400 千円

空港隣接地域振興事業費補助金：234,542 千円

地域総合整備事業債：1,459,700 千円

県振興資金：422,000 千円 一般財源：352,159 千円

【事業実績】

平成 10 年 9 月 23 日 中華人民共和国「中国茶葉博物館」友好提携締結

平成 13 年 10 月 5 日 2001 年世界お茶まつり「O-CHA パイオニア賞」受賞

平成 16 年 6 月 8 日 台湾区製茶工業同業公会御礼授与

平成 16 年 11 月 3 日 福岡県星野村茶の文化会館及び入間市博物館と姉妹館協定締結

平成 17 年 3 月 24 日 (社)静岡県茶文化振興協会「茶文化活動振興賞」

◆有料入館者数

平成 18 年度 34,459 人 平成 19 年度 47,353 人 平成 20 年度 51,038 人

【管理運営】

平成 19 年度から指定管理者「お茶の郷ハラダ・静鉄レストラン JV」に委託。

施設管理委託料 55,255,000 円

【視察時の質疑から】

Q) 一番茶、二番茶以降について、どのようなことを考えているのか。

A) 三番茶はほとんど採らない。一番茶とそれ以降の生産製造計画を考えていかないといけない。これから戦略を考えていく。

- Q) 共同でやっている茶工場は、どんな形で運営されているのか。
- A) 島田市の共同茶工場は、農業協同組合法に基づく専門農協で「〇〇茶農業協同組合」というのが多い。機械を共同で利用する組織。荒茶生産組織自体が農業経営をやっているわけではない。これからは、農事組合法人、有限会社、株式会社が直接茶園を持って、茶園の管理から収穫、荒茶の製造出荷まで一貫した経営をしないとなかなか厳しいのではないかと。
- Q) 共同工場や農業生産法人への具体的な支援策は。
- A) 今の茶農協を再編して新たに有限会社、農事組合法人、株式会社等、組織を立ち上げるための、制度資金、茶園管理の方法、お金の配分方法など、ソフト面の支援。
- Q) 戦略品種としていろいろな品種を奨励しているが、ブランド化等の意図があるのか。
- A) 静岡県全体で、やぶきた以外を何とか普及していこうと。うまく早晚をつけて、早生、中生のやぶきた、そのあと晩生という中でやれば工場稼働率もよい。その中で島田市が選んだものが7品種。ただ、実際にこの品種が増えているかということ、なかなかそうはいかない。やぶきた以外の品種は取引価格が落とされてしまう。
- Q) 川根、金谷、島田と3つのブランドがあるが、1つの市になっても統一することはないのか。このまま3本立てでいく考えなのか。
- A) 3銘柄持っている強みを生かして茶業振興を図っていこうと考えている。当面一緒にするという動きはない。
- Q) 葉売り農家はどのくらいあるか。
- A) 茶工場の構成農家以外が葉売り農家となるが、はっきり把握できていない。
- Q) 入間市でも葉売りだけだとジリ貧で、茶畑を放棄する傾向がある。島田市ではどうか。
- A) 葉売り農家に移行した農家は後継者がいないお宅。協同茶工場への参画もできない。自分ができる間は生葉の出荷でいく。できなくなれば廃業して茶園を貸すという方向。
- Q) 入間市のお茶屋（農家）は、狭い耕地を有効に使うということで、ほとんどが仕上げまでして製品販売しているが、島田市では。
- A) 仕上げまでして100%売っている農家は、知っているかぎり数軒しかない。
- Q) 市内小中学校、幼稚園及び保育園へ給食茶の贈呈とあるが、すべての生徒が給食の時にお茶を飲むということか。
- A) 島田市茶業振興協会が、主には小中学校だが、学校給食で地元のお茶を飲んでくださいということで贈呈している。年間通して飲むだけの量はまかないきれない。
- Q) お茶の郷の有料入館者数が5万人余りとなっているが、売上金額は。
- A) 入館料収入は2千4～5百万円くらい。市から指定管理料として5千5百万円出していて、指定管理者の自分の経営の中で、入館料と、売店、レストランの販売収入で、少し赤字。指定管理者の親会社の持ち出しがある。

【視察後の協議会から】

- お茶の郷が年間 3,000 万円以上稼いでいるというのはすごい。外国からの観光客が団体で来るとのこと。
- お茶の郷博物館が指定管理者ということで、入間市でも検討する必要がある。
- 後継者不足については、どこも同じである。
- 入間市のお茶屋は、自営自製自販ですべて完結している。島田市は茶商がいるということで、製造販売が別の所。共同化も進んでいる。お茶の商品化過程がだいぶ違うという感じがあった。耕地面積の違いもあるが、販路の違いということもあるのかなという印象を持った。
- 生産量が違うので同じ手法は採りづらい気がするが、次世代の生産者の育成支援、マーケティングの講座、中山間地の経営手法等の研修をしているという部分については、入間市に合った形でそういうテーマを採りいれていく必要はある。
- お茶の郷の指定管理料 5,500 万円と伺ったが、入間市博物館の維持で 2 億数千万円。何かが違うのだろうと感じた。指定管理にしたデメリットという課題もあると聞いた。指定管理者として地元の鉄道会社とまちで一番大きな茶商が入っているという部分でのメリットを最大限生かすという意味では、成功例ということになるのかなと思う。入間市でもお茶の文化をどうやって発信していくかという部分では、博物館を含めて考えていく必要がある。
- 静岡茶は生産量も多いが、入間市と環境が違うということは、地域で生産されたものを地元で消費する率が非常に少ない。約 10 万の人口があるが、そこで買う量というのは微々たるものである。ほとんどが茶問屋へ行って販売ルートに乗せていくというかたち。
- 今後高齢化が進んでいったときに、入間市としても最終的に農業生産法人について、必要になってくるだろう。放棄地をなくすためにも、これについては今から十分研究して、他市の例を参考にしていく必要がある。
- 学校、幼稚園、保育園にお茶の配給を行って、子どもの頃からお茶に慣れ親しんでいただく。教育面を含めて大事であると感じた。